

技術情報

長崎県病害虫防除所長

令和4年度病害虫発生予察技術情報第2号

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ） 新世代成虫の発生量及び果樹園への飛来時期について

果樹カメムシ類については8月以降、越冬成虫から新世代成虫に入れ替わる時期となります。

新世代は主にヒノキきゅう果上に生息し、きゅう果が餌として好適な期間はヒノキ上にとどまりますが、吸汁によってきゅう果の劣化が進み、餌として不適になるとヒノキから離脱し果樹園へ飛来します。

7月までの越冬世代成虫の発生は少ない状況であり、現在のヒノキ樹上の寄生虫数は平年並ですが、7月までの越冬世代成虫の発生は少ない状況であり、現在のヒノキ樹上の寄生虫数は平年並ですが、ヒノキきゅう果の着生量は平年より多く餌が豊富なため、新世代成虫の発生は平年並以上になると予想されます。

口針鞘数は平年並の状況ですので、新世代成虫のヒノキからの離脱時期は平年並と予測されますが、飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合がありますので、注意が必要です。

記

1. 発生状況について

- (1) 4～7月のフェロモントラップの誘殺数は平年より少なく、越冬世代成虫は少ない（図）。
- (2) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は2.2頭（平年 2.1頭）と平年並である（表1、2）。
- (3) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果着生状況調査の結果、県内15地点の平均着生量は4.0（平年 2.7）と平年より多い（表2）。

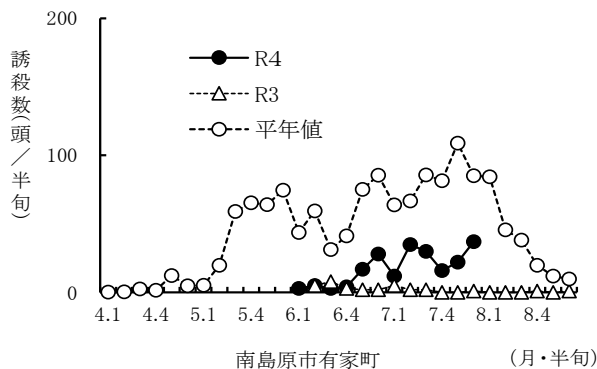
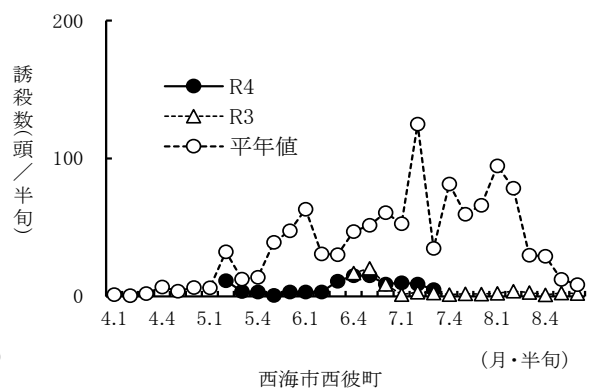
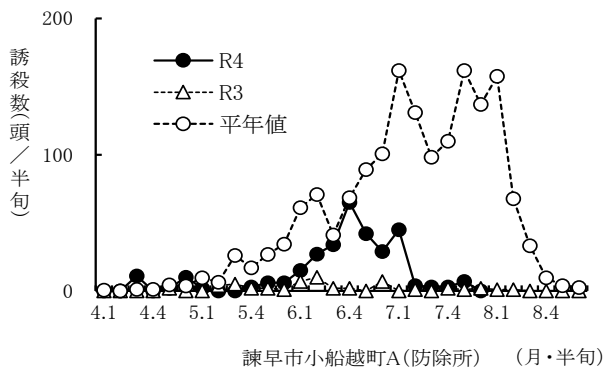


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

表1 ヒノキ樹（きゅう果着生枝）における果樹カメムシ類の寄生状況（令和4年7月20、22日調査）

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計	きゅう果着生量*
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計		
令和4年	1.2	0.1	0.3	0.2	1.8	0.3	0.1	0.0	0.0	0.4	2.2	4.0
平年	0.7	0.2	0.4	0.5	1.8	0.1	0.1	0.1	0.0	0.3	2.1	2.7

* きゅう果着生量は、程度を5段階（多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1）として達観調査した

表2 果樹カメムシ類の寄生状況およびヒノキきゅう果着生量の年次別推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年	R4
寄生虫数(頭/枝)	2.8	3.4	2.5	0.6	0.3	2.6	4.9	2.6	0.6	0.5	2.1	2.2
きゅう果着生量	3.0	2.2	3.5	1.0	2.3	3.5	2.9	3.5	2.1	2.3	2.7	4.0

* きゅう果着生量は、程度を5段階（多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1）として達観調査した

2. 果樹園への飛来時期について

- (1) 7月20、22日に採集したヒノキきゅう果上の口針鞘数調査の結果、調査地点の平均の口針鞘数は2.5本（平年 3.0本）と平年並（表3、4）であり、各地域におけるヒノキからの離脱時期は表3のとおりと予測される。

表3 ヒノキきゅう果における口針鞘数及び離脱予測日

調査地点	7月20、22日採集	
	口針鞘数 (1果当たり)	離脱予測日
諫早市多良見町東園	2.8	9月3日
諫早市多良見町佐瀬	3.1	9月3日
長与町岡	2.0	9月6日
時津町西時津	3.5	9月1日
西海市西彼町小迎	2.2	9月6日
西海市西海町木場	1.8	9月7日
諫早市長田	0.4	9月10日
大村市今村	2.5	9月5日
東彼杵町赤木	3.0	9月3日
雲仙市瑞穂町伊福	7.5	8月16日
雲仙市国見町百花台	2.2	9月4日
南島原市有家町新切	3.0	9月1日
南島原市北有馬町田平名	2.4	9月3日
佐世保市宮	0.3	9月12日
佐世保市針尾	0.4	9月12日
平均	2.5	9月4日

表4 口針鞘数及び離脱予測日の年次別推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年	R4
調査日(月/日)	7/26	7/22	7/22	7/22	7/21	7/24	7/25	7/23	7/21	7/21	7/21	7/21
口針鞘数(本/果)	2.8	2.5	1.2	6.2	0.8	2.0	9.7	1.1	2.5	1.2	3.0	2.5
離脱予測日(月/日)	9/8	9/5	9/9	8/22	9/10	9/9	8/15	9/11	9/4	9/8	9/3	9/4

注1) 令和4年7月20日、22日に採集したきゅう果30果についての口針鞘数を数えた

注2) きゅう果は1果当たりの口針鞘数が25本以上になると餌として適さなくなり、餌不足になったカメムシはヒノキから離脱して果樹園に飛来する

注3) 予測日は予測式(福岡県農業総合試験場作成)を利用して算出した

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 山林に近い園地や毎年発生を認める園地などでは、表3の予測日を目安に見回りを徹底し、カメムシ類の飛来が認められた場合には早急に防除を行う。
- (2) 高温・乾燥が続く場合、ヒノキきゅう果の劣化が早まり、離脱開始が予測日より早くなる場合があるので、今後の気象の推移に注意する。
- (3) 飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合があるので注意する。

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室

(長崎県病虫害防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室

(長崎県病虫害防除所) TEL：0957-26-0027

